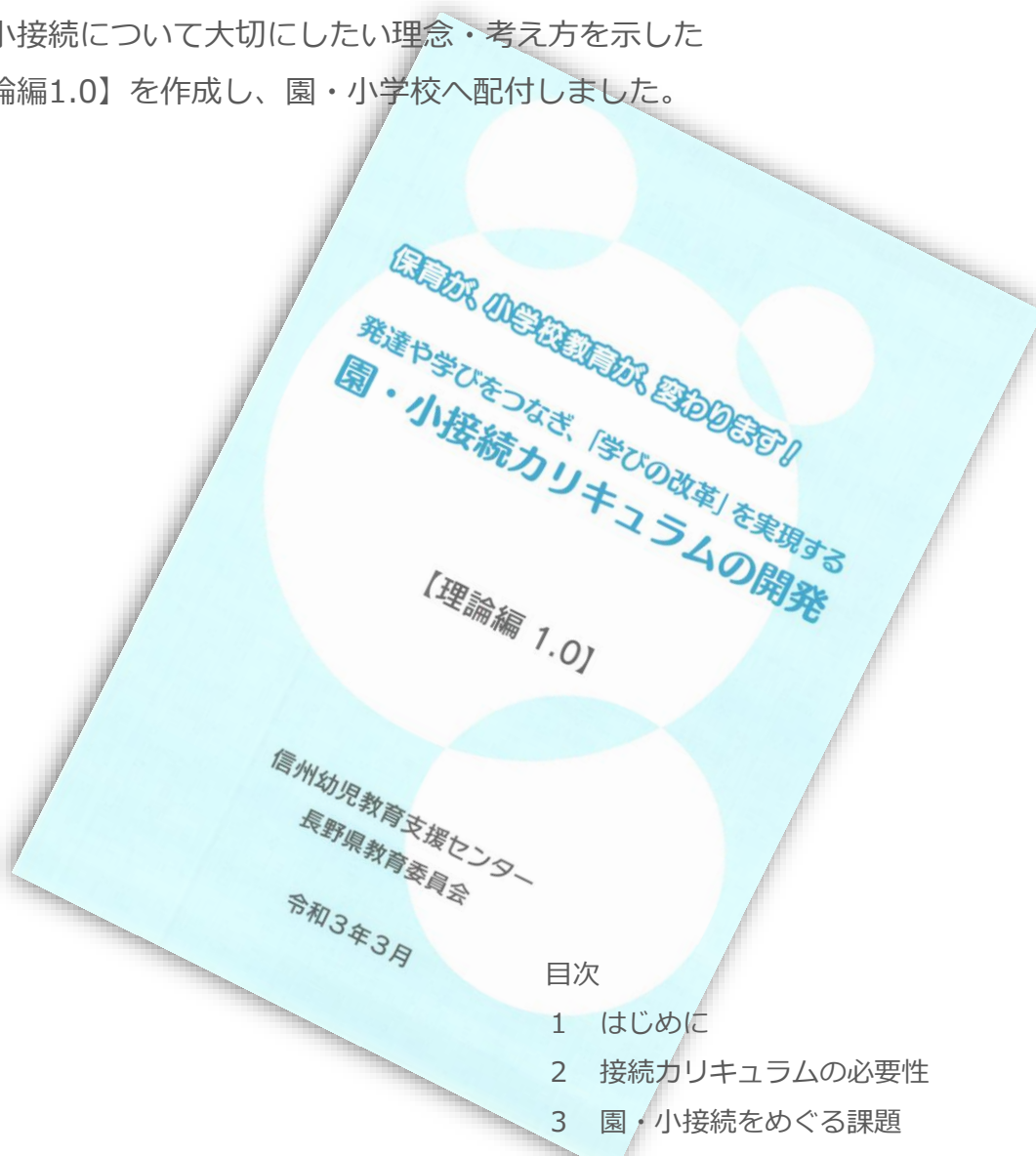


各市町村や各園・小学校が作成する接続カリキュラムの開発に

ぜひ、ご活用ください

信州幼児教育支援センターでは、各小学校で実施されているスタートカリキュラムや各園の保育実践を見直し、子どもの発達と学びをつなぐ接続を実現していけるよう、園・小接続について大切にしたい理念・考え方を示した【理論編1.0】を作成し、園・小学校へ配付しました。



目次

- 1 はじめに
- 2 接続カリキュラムの必要性
- 3 園・小接続をめぐる課題
- 4 発達や学びをつなぐ接続とは
- 5 発達や学びをつなぐ接続にむけて
- 6 発達や学びをつなぐ接続カリキュラムを開発する
- 7 家庭との連携

「連携あって接続なし」と
言われるけれど…

📖 詳細は本誌 P 6 参照



3 園・小接続をめぐる課題

(1) 小学校の現場から

何が、望ましい接続を、
妨げてきたのでしょうか。



(略)特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

「小学校学習指導要領」(平成 29 年3月告示)より

画一的な指導

入学後の学校生活において、基本的な生活習慣を身に付けさせようとするあまり、画一的な指導により、教師の指示で動く場面が多くなりがちです。「小学校から教育がスタートする」という誤った考え方が、そのような状況を生んでいるとも推測できます。何も知らない、何もできない子どもたちにイチから学校生活に必要な学習や生活の基本を教えなくてはと考えてしまっている、幼児期の育ちを切れ目なくつなぐ接続にはなりません。そのような考え方から転換を図る必要があります。

また、例えば、「学校探検」においても、学校に慣れることが主目標になってしまい、ルールや決まりを教える場となつてはいないでしょうか。例えば、この部屋は何をしたらいいかと考えたり、上級生に聞いたりする場をつくるなど、幼児期に育んだ、新しいことに挑戦する姿や試行錯誤する姿、友達と支え合う姿、表現する姿等を十分に発揮できる場として、「学校探検」を位置付けることが必要です。

園・小学校
それぞれの
立場から
考えてみます

自身の実践を
見つめ直す
きっかけに

【チェック】こんな接続になっていませんか。

【小学校】

- 子どもが自分で考えて行動することよりも、まずは、教師の話静静地に聞けることを意識している。
- 例えば、ロープを持たせて列を整えるなど、園でも自分たちで整列することができていたのに、できないことと教師が思い込んでいることがある。
- 小学校の生活に慣れさせることが重要で、「お口チャックで、手はお膝」など、規律訓練的な態度を身に付けさせようとしている。
- 学校探検は、学校のどこに、どんな教室があるかを知り、学校生活に慣れさせることを第一の目的にしている。

令和2年度末に、
各市町村や各園・小学校へ
5冊ずつ配布しました。



問合せ先

信州幼児教育支援センター (長野県教育委員会事務局学びの改革支援課内)
〒380-8570 長野市南長野幅下692-2

電話 026-235-7489 FAX 026-235-7495

mail kyogaku@pref.nagano.lg.jp (担当: 鈴木)